

株式会社エスピー工研

建設資材等の鉄鋼製品を製造している札幌市西区の株式会社エスピー工研では、平成25年度に続いて今年度も本事業を活用し、愛知県の株式会社TEKNIA、神奈川県的神鋼溶接サービス株式会社・溶接研修センターへ技術職の社員を派遣。常にワンランク上の技能・品質・生産性を目指して、人材育成を進めている。

「良品100%」「多能工化」に向け 本州の研修センターへ 社員を派遣

長期的視点で人材育成を

溶接や金属加工等を行う技能の世界では、現場での実践を通して「先輩の背中を見て学ぶ」育成スタイルが主流であり、社員が技術理論を勉強する機会のないまま、見よう見まねや我流で作業を進めている企業も多いというのが実情である。

㈱エスピー工研では、「経験や勘に頼って仕事をするのではなく、技術理論をしっかり理解し、それを技能に生かすことでレベルアップにつなげていくことが大事」という考えのもとに、数年をかけて技術職社員全員を道外研修に送り出すなど、積極的に人材育成を進めている。三箇将夫社長は「技術的に早くレベルアップしていくには、外部での研修受講が非常に役立つ。外に出ることで自分の今のレベルがわかり、立ち位置が見えてくる」と語る。

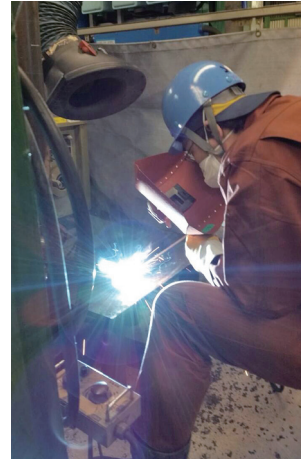
また「人材育成は短期的には成果が見えにくい、経営者の中には費用対効果を考え研修派遣を躊躇するケースも多い。ただ長期的に見ると、社員の技術力向上や多能工化が進めば生産のスピードアップ、効率化が図られ、全体的な生産性向上につながり、十分な効果が見込める。長期的な視点で成果を見定めることが重要だ」とも語った。

少人数で生産性を上げていくために

工作機械部品や航空機部品、電機・電子部品等を製造する㈱TEKNIAが行う「テクニアカレッジ」は8日間のカリキュラムで、図面の見方、刃物の知識、測定方法や工具の使い方等の基礎知識のほか、ボール盤技術、旋盤技術、フライス盤技術の専門技能を学ぶ。

また神鋼溶接サービス(株)溶接研修センターでは、各社の要望に合わせたオーダーメイド型のカリキュラム対応が可能であり、初心者向けからレベルアップコースまで幅広い研修コースが用意されている。

㈱エスピー工研では、主に溶接作業に従事してきた社員を機械加工のテクニアカレッジへ、逆に機械加工に従事してきた社員を溶接研修センターに派遣するなど、新たな技術・技能を身に付けさせることで社員の多能工化を進めている。その背景には、少子高齢化に伴う将来的な人材不足への対応として、「少人数でいかに生産性を向上させていくか」という同社の課題認識がある。目指すのは、品質と生産性の両立であり、不良品を出さない「良品100%」のものづくり。作業能力の平準化と作業効率の向上を図り、顧客の求めに合った製品を高次元で提供していくための人材育成が進められている。



教科書には書いていない
実践的な研修内容で収穫大

「井の中の蛙」にならず 更なるレベルアップを

代表取締役 三箇 将夫



当社では、地元業界の底上げのためには、各社が互いに切磋琢磨していくべきという考えのもと、ノウハウを全て公開しています。公開されたノウハウはいずれ業界では普通となるので、公開した時点で当社は次のステップを目指さなければなりません。そうした点からも、外部研修は非常に有効です。特に本州の高いレベルを見て刺激を受けることで、「井の中の蛙」にならずに更なるレベルアップが可能になります。

理論的かつ実践的に 学べました

折館 一三



旋盤・フライス盤はほとんど使ったことがありませんでしたが、今回の研修でどう動くかがわかっただけでも、収穫は大きかったと思います。回転数の計算の仕方等の知識を学び、それを実践で体得していくという指導方法で、大変勉強になりました。日頃の業務でも、体が覚えていくうちにどんどん触って、身に付けていきたいと思っています。

考え方・見方が 変わりました

平野 孝志



昨年は溶接研修を、今回はテクニアカレッジで機械加工を学びました。長年携わってきた溶接ですが、経験や勘に頼ってきたやり方とは違う技術を学ぶことができ、見方も変わりました。機械加工については基本を学んだのみでまだまだ練習が必要ですが、いずれの研修も非常に実践的で、もっと学びたいという意欲が湧いてくる内容でした。

会社情報

株式会社エスピー工研
●所在地／札幌市西区発寒17条14丁目1-38
●TEL／011-662-4131・FAX／011-665-4447
●代表者／代表取締役 三箇 将夫
●創立／昭和15年11月(創業／昭和10年10月)
●従業員／19名 ●URL／<http://www.spkoken.co.jp/>